# 令和７年度　長崎市立三重中学校　学力向上プラン

**県の成果指標**

柱1:一人一人に応じた最適な学びを提供する(成長の基盤となる資質･能力の育成)

※目標値:令和 10 年度までに全国平均正答率以上

**市の成果指標**

･夢や目標をもっている小中学生の割合(82.6%)

･ICT の活用によって、学習に取り組む意欲･態度が高まった小中学生の割合(80.0%)

**学校教育目標**　『確かな学力と健やかな心と体をもち　自信と誇りをもって行動する生徒の育成』

**目指す生徒像**
- ○目標達成のために主体的に考えることができる生徒
- ○目標達成のために協力できる生徒
- ○目標達成のために粘り強く取り組む生徒

**生徒の実態**　全学年ともに学力調査の平均を下回る。

①基礎的な学習内容の未定着　②家庭学習の不足　③学力の２極化

④問題を読み取る力の不足　⑤困り感をもつ生徒への個別支援の不足

**本校の成果指標**
- ○各種学力調査において、前年度の結果から国･県･市とのポイント差を３ポイント縮める。
- ○家庭学習に、１日あたり１時間以上取り組む生徒の割合 50%を目指す。

**授業改善･校内研修の充実**

「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成　~規律の徹底による学習習慣の確立と、家庭学習と授業をつなぐ授業を通して~」

○各教科による基礎･基本の洗い出しと到達目標の設定　○授業の流れを「見える化」し、「めあて」の提示と「まとめ」を意識した実践

○家庭学習の習慣化と内容の充実　○支援が必要な生徒への手立て　○生徒が主体的に取り組む教材や授業形態の研究

| 学習意欲の向上･家庭学習の充実 | 基礎･基本の徹底 | 思考力･判断力･表現力の育成 | 家庭･地域との連携 |
|---|---|---|---|
| ○キュビナによる週末課題の実施<br>○単元テストによる繰り返し学習<br>○指導の評価と改善<br>○ICT(キュビナ)の活用 | ○授業規律の共通実践<br>○家庭学習による復習<br>○長崎県授業改善メソッドの活用<br>(「めあて」「まとめ」の提示)<br>○ICT(キュビナ)の活用 | ○各教科による言語活動の充実<br>○読書活動や生徒会活動･学級活動等における言語活動の充実<br>○学力調査問題を活用した授業実践<br>○教え合い活動の実践 | ○各種通信･ホームページによる情報の発信<br>○育友会活動や四校連絡会との連携<br>○校区内小学校との連携 |

**今年度の重点実践目標(学力調査の結果をふまえて)**

**○「読解力」に重点を置いた基礎基本の定着　　○ 授業とつながる「家庭学習の充実」**

| 各教科による具体的な取組 | |
|---|---|
| 国語 | 読解用の文章題の定期的な出題(宿題)と確認。単元のスタートに意味調べ課題プリントの配付。 |
| 社会 | 資料を用いた問題を多く解き、理解を深め、ワーク(キュビナ)を活用し、学力向上を図る。 |
| 数学 | キュビナやプリントを使って、週１回以上課題を出す。キーワードや立式につながる語句の読み取りの指導を徹底する。 |
| 理科 | 授業のポイントになる部分をしっかり読ませる。繰り返し学習をして読解力を高める。 |
| 音楽 | 毎日、全員で音読する場面を作る。家庭での音楽メディアの活用を促す。 |
| 美術 | 授業規律の徹底。説明(表現方法･道具の使い方など)の理解力の向上を目指す。 |
| 保体 | 振返り(ワークシート)の記入例を示して、基本用語の定着を図る。(種目ごとに毎回) |
| 技家 | 教科書にある専門的用語を、読んだり書いたりさせる。 |
| 英語 | 読み取らせたい文章の「目的･場面･状況」を毎時間提示する。単元の小テストを計画的に実施する。 |